

4 近代と時間観の変化

人工・機械的な時間
定時法



神的・自然的な時間
不定時法

HOW FAST IS YOUR CITY?

Average time taken (in secs) to walk 60ft

FASTEST

1 Singapore (Singapore)

2 Copenhagen (Denmark)

3 Madrid (Spain)

4 Guangzhou (China)

5 Dublin (Ireland)

6 Curitiba (Brazil)

7 Berlin (Germany)

8 New York (USA)

9 Utrecht (Netherlands)

10 Vienna (Austria)

11 Warsaw (Poland)

12 London (United Kingdom)

13 Zagreb (Croatia)

14 Prague (Czech Republic)

15 Wellington (New Zealand)

16 Paris (France)

17 Stockholm (Sweden)

18 Ljubljana (Slovenia)

19 Tokyo (Japan)

20 Ottawa (Canada)

21 Harare (Zimbabwe)

22 Sofia (Bulgaria)

23 Taipei (Taiwan)

24 Cairo (Egypt)

25 Sana'a (Yemen)

26 Bucharest (Romania)

27 Dubai (United Arab Emirates)

28 Damascus (Syria)

29 Amman (Jordan)

30 Bern (Switzerland)

31 Manama (Bahrain)

32 Blantyre (Malawi)

SECS

10.55:

10.82:

10.89:

10.94:

11.03:

11.13:

11.16:

12.00:

12.04:

12.06:

12.07:

12.17:

12.20:

12.35:

12.62:

12.65:

12.75:

12.76:

12.83:

13.72:

13.92:

13.96:

14.00:

14.18:

14.29:

14.36:

14.64:

14.94:

15.95:

17.37:

17.69:

31.60:

SLOWEST

世界32の都市で、
徒歩18Mを歩く速さを測定

1994年平均13.76秒⇒2007年平均12.49秒
「私たちは10年前に比べて、10%も早く動いて
いる」

〈中国(広州)で20%、シンガポールで30%〉

(Richard Wiseman 心理学者)

http://www.richardwiseman.com/quirkology/pace_method.htm

世界陸上歴代男子100M順位

2007	タイソン・ゲイ アメリカ <i>Tyson Gay</i>	9.85	デリック・アトキンス バハマ <i>Derrick Atkins</i>	9.91	アサファ・パウエル ジャマイカ <i>Asafa Powell</i>	9.96
2009	ウサイン・ボルト ジャマイカ <i>Usain Bolt</i>	9.58	タイソン・ゲイ アメリカ <i>Tyson Gay</i>	9.71	アサファ・パウエル ジャマイカ <i>Asafa Powell</i>	9.84
2011	ヨハン・ブレイク ジャマイカ <i>Yohan Blake</i>	9.92	ウォルター・ディックス アメリカ <i>Walter Dix</i>	10.08	キム・コリンズ セントクリストファー・ネイビス <i>Kim Collins</i>	10.09
2013	ウサイン・ボルト ジャマイカ <i>Usain Bolt</i>	9.77	ジャスティン・ガトリン アメリカ <i>Justin Gatlin</i>	9.85	ネスタ・カーター ジャマイカ <i>Nesta Carter</i>	9.95
2015	ウサイン・ボルト ジャマイカ <i>Usain Bolt</i>	9.79	ジャスティン・ガトリン アメリカ <i>Justin Gatlin</i>	9.80	トレイボン・ブロ梅ル アメリカ <i>Trayvon Bromell</i>	9.92
					Andre De Grasse	9.92

1年は何秒の長さ？

1年

365日

$$365 \times 24\text{H} = 8,760\text{H}$$

$$8,760\text{H} \times 60\text{M} = 525,600\text{M}$$

$$525,600\text{M} \times 60\text{S} = 31,536,000\text{S}$$



酋長ツイアビと彼の奥さん
(1910年撮影)

「パパラギ」

「近代社会」の異様さの一面(時間的な側面を中心)を、1920年にサモアの酋長ツイアビの西欧旅行記『パパラギ』を通して考えてみよう。

(エーリッヒ ショイルマン『パパラギ』岡崎照男訳、立風書房、1981年、絵本として2002年再出版)

「近代社会」の異様さは、1920年にサモアの酋長ツイアビが語ったとされる西欧旅行記『パパラギ』における、ヨーロッパへの形容にみてとれる。

- ・「彼は自分の時間をうばう無数のものの名前をあげ、楽しみも喜びも持てない仕事の前へ、ぶつくさ不平をいいながら、しゃがんでしまう」
- ・「彼らに教えてやらねばならない。日の出から日の入りまで、ひとりの人間には使いきれないほどたくさんの時間があることを」
- ・「パパラギは、みんな時間の恐怖にとりつかれているので、生まれてから今まで、何回日の出、月の入りがあったか良く知っている。私はよく何歳かと聞かれた。そのたびに笑って『知りません』と答えた。そんな私を彼らはかわいそうだと考える。『自分の歳くらい知っているべきだ』と彼らは言った。私は黙って、心では『知らないほうがずっといいのに』と思っていた」

時間に関する 言葉の語源と古層意識

- ①イザナギ・イザナミ神話にみられるように、死とはヨミの国、またはさまざまな名前で呼ばれる他界へと去ること。「よみかえり」=空間的移動としての生死のイメージ
- ②昼一夜は二つ空間的に表象される(独立した別の世界)。
アマテラス(高天の原=天)・スサノヲ(海原=海)・ツクヨミ(夜の食国=夜)
- ③日本語のなかで暦の時間を区切る単位
日(ヒ)、月(ツキ)、年(トシ)

「トシ(年)とは元来イネのみのりをあらわしていた。つまり、イネのみのりが一度あることをひとつのトシと呼んでいた。」平野仁啓『続 古代日本人の精神構造』未来社、1976年、308-309頁

ここ

みめ

あまたらすおほみかみ

是に左の御目を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、天照大御神。次に右の

つくよみ

みはな

御目を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、月読命。次に御鼻を洗ひたまふ

たけやは すさ のをの

時に、成れる神の名は、建速須佐之男命。

西郷信綱『古事記注釈』第1巻、ちくま学芸文庫、2005年、300頁

な みこと たかま

ことよ

天照大御神に…「汝が命は高天の原を知らせ」と、言依さして賜ひき。…

つくよみの

よる をすくに(=治める國の意)

次に月読命に…「汝が命は夜の食国を知らせ」と言依さしき。

たけはや すさのをの

みことの

うみばら

次に建速須佐男命に詔りたまひく、「汝が命は海原を知らせ」と言依さしき。

西郷信綱『古事記注釈』第2巻、ちくま学芸文庫、2005年、12頁

「時と年」

『日本国語大辞典』小学館、2006年、1788、1817頁

とし【年・歳】

①時の単位。現行の太陽暦(グレゴリオ暦)で

は、地球が太陽のまわりを一周する時間(平均三六五・一四二二日)を一年とし、平年は三六五日、四年ごとに閏年(うるう)を設け三六六日として補正する。日本では明治六年(1873)太陽暦に改められるまで、中国伝来の太陰暦を用いた。太陰暦では、新月から次の新月まで、または満月から次の満月までの朔望月(ぼくづき)(平均二九・五三〇五九日)を基準とし、一二朔望月(平均三五四・三六七〇日)を一年とするため、大の月(三〇日)と小の月(二九日)とを適当に組み合わせ、かつ一九年間に七回の閏月を設けて暦と季節とのずれを補正した。したがって暦の上の年の一年は日数が一定でない。暦年。①一年間を単位とする歳月。一二か月。*古事記(712)中・歌謡「あらたまの 登斯シが來き経れば あらたまの 月は来経へゆく」*俳・奥の細道(1693-94頃)旅立「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」②年次。その年。当年。*万葉(8世紀後)一八〇「み立たしの

とき【時】

知覚された事物を配列する尺度の一つ。過去・現在・未来と連続して、止まることなく戻ることなく、永遠に流れ

移つてゆくと考えられ、空間と共に認識の最も基本的な形式をなすもの。物事の変化・運動を通して感知され、一般には年・月・日・時・分・秒などの単位を用いて表わされる。

①時間の

流れをさしていうことば。時間。光陰。*万葉(8世紀後)四六九「妹

が見しやどに花咲き時は経ぬ吾わが泣く涙いまだ干なくに」*雜俳・柳多留(1791)「時過ぎ時きたりよふよふと来る」②客観的に定められた時法(単位と尺度)によつて示される一昼夜のうちの一時点。時法には時代によつて変遷があるが、大別して定時法と不定時法があり、そのそれぞれにまた多くの種類があつて、明治初期までは同じ時代にも複数の時法が行なわれるのがつねであった。時刻。辰刻(じんくく)。刻限。①ひろく、

行なわるのがつねであった。時刻。辰刻(じんくく)。刻限。①ひろく、

②ひそかに

⑥ 年 ⑧ 念 拙 ⑪ 捻 粘 ⑫ 黏 ⑬

稔 ⑯ 擦 ⑰ 燃 ⑱ 然 ⑲ 難 ⑳ 繼

常 [年] 6 / 8050 ネン
みのるとし



◎

会意

禾か十人。禾は禾形の被りもので稻魂だま。これ

を被つて舞う人の姿で、祈年の舞をいう。男女相偶して舞い、女には委という。低い姿勢で舞う。子供の舞う字は季。農耕の儀礼に男女が舞うのは、その性的な摸擬行為が、生産力を刺激すると信じられたからである。「詩、周頌、載芟きん」は、廟に神饌を供する神田における耕藉の儀礼を歌うもので、「其の婦に思媚す 依たる其の士きと有り」とは、そのような男女の舞をいうものであろう。豊年を予祝する舞であるから「みのり」の意となり、一年一熟の禾があるので、一歳の意となる。夏には歳、殷には祀、周には年という。歳・祀はともに祭祀の名。その時期や期間の関係から、年歳の意となつた。年は稔ね。「説文」七上に「穀、孰じゅするなり」とし、千せ声とするが、ト文の字形では下部を人に作る。熟穀の意には稔の字を用いる。

①みのる、みのり、穀物。②とし、一とせ、よわい。③とき、そのよ。

古訓 「名義抄」年 トシ／去年 コゾ／年來 トシゴロ
語系 年 nyen は稔 njiam と声義近く、「説文」にいづれも「穀、孰じゅするなり」とみえる。いずれかといえれば、稔は動詞として、年は年歳の意に用いることが多い。また年に古く佞 nyeng と通用することがあり、「公羊伝、襄三十年」「天王、其の弟年夫を殺す」の「釈文」に「年夫、音は佞ね。二傳は佞夫に作る」という。女舞の委に依媚の意があり、男舞の年にも、そのような声義があつたのであろう。

とし【年・歳(歳)】

一毛作収穫の穀物を「とし」といいう。米をはじめ多くの穀物は一毛作であり、御年神は稻を神格化したものである。その一毛作の時期を「とし」という。のち暦法上の一年をいう語となつた。年を数える助数詞として用いるときには「とせ」といいう。「代」と同義。トは乙類。

(中略)

年は禾と人とに従う。「説文」七上に「穀、孰（熟）するなり」とあり、稔る意とする。年は稻魂としての禾を被つて舞う男の人の形。豊穰を祈る農耕儀礼で、ともに舞う女を示す字は委、幼少のものの舞う字は季である。生産力を高めるため、稻魂の舞踊が行なわれた。ト辞に「年を受けられんか」「黍年を受けられんか」のようにトする例が多い。穀物は一毛作のものが多く、その収穫期を以て一年とする。

とき【時・期(期)・季】

時間をいう。「と」は特定の時を指示する語。「とき」は時の流れのなかでのふさわしい時期・期間・季節、また時代のように、かなり長い時間をまとめている。「とき」の派生語「時じ」は、「鴨かもじもの」のようにならす、不斷にの意と、時期はずれの意とがあり、要するに時に限定されないという意がある。

常【時】	10	【告】	8

—
6404 —
2260 —
とき ジシ

形声

声符は寺じ。寺に、ある状態を持続する意があり、日景・時間に關しては時という。

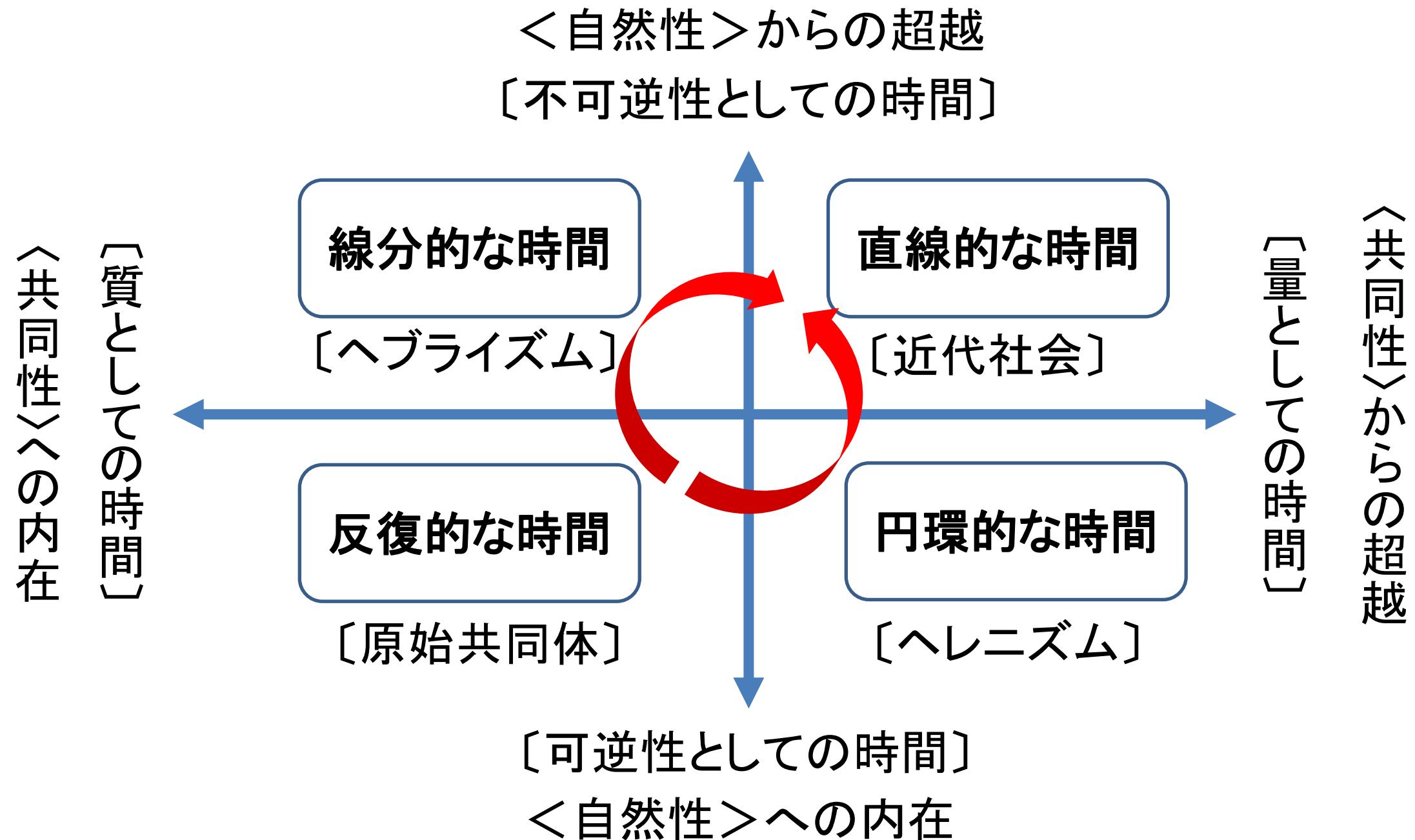
〔説文〕七上に「四時なり」と四季の意とする。〔書、堯典〕「敬いそつんで民に時を授く」は農時暦の意。古文の字形は

中山王鼎にもみえ、之と日とに従う。之にものを指示特定する意があり、〔書、舜典〕「百揆き時これ敍す」、「詩、大雅、縣」「日ひに止まり 日ひに時ときる」のようない用法がある。また「石鼓文、避よ居車石」に「即ち避よ居即ち時ときがふ」とあって、そのときを待つ意に用いている。

- とき、ひつき、きせつ。
- おり、しお、そのとき、そのころ。
- ときに、ときおりに。
- そのときにあたる、ときをえる。
- 是・謎と通じ、よい。
- 是と通じ、この、これ。
- 司・伺と通じ、うかがう、つかさどる。
- 時と通じ、まく。
- 待と通じ、まつ。

時間意識の4つの形態

時間意識の4つの形態



①原始共同体の場合

- ・「くりかえす逆転の反復、対極間の振動することの連續」

②ヘレニズムの円環的な時間の表象

- ・「(創造者デミウルゴスは)天界を数にしたがってうごく永遠の写像となし、それに時間という名を与えた。」(プラトン)
- ・「時間とは…前と後に関する運動の数」(アリストテレス)

③ヘブライズム的時間観念

- ・ヘブライズムの直進する時間の意識は、終末論をその起源としている。
- ・「古き世」(現存する世界)と「新しき世」(来たるべき世界)とを区切る〈終末〉が、後に「一回的」「不可逆的」なものとみなされるようになった。

初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の靈は水の上を動いていた。そのとき、神が「光よ。あれ。」と仰せられた。すると光ができた。神はその光をよしと見られた。そして神はこの光とやみとを区別された。神は、この光を昼と名づけ、このやみを夜と名づけられた。こうして夕があり、朝があった。第一日。『聖書』(新改訳)

「時刻の測定と周知とは暦制の整備および年代記の編纂とともに、抽象化された普遍性としての時間のシステムの制定として、律令制国家の確立の過程と表裏をなしている」

「理念型としての、すなわち方法的に純化されたモデルとしての〈ヘレニズム〉および〈ヘブライズム〉」の時間意識は、原始的な共同体の時間意識と近代世界の時間意識とを架橋するこのような対照的な二つの回路として定位することができる」

真木悠介『時間の比較社会学』岩波書店、1981年、118、183頁

ADというヨーロッパ宗教紀元
(Anno(年) domini(主の) =ラテン語で「わが主の年」の意味)

- ・「それ以後」と「それ以前」の両方向へ向かって時間を数えるのは、西暦だけであり、その他の歴は「それ以後」しか数えない。
- ・「それ以前」の意味=歴史学、考古学、地質学などの科学にとって紀元前の年代算定の重要性。
- ・「7日目の休日」が世界ではすでに労働の基準の一つになった。
- ・「グレゴリオ歴」=ユリウス歴を改良したものです、現在の太陽暦。1年を365日とし、4年に1回閏年を置いて366日とする。

Hans Maier『西暦はどのようにして生まれたのか』(野村美紀子訳、教文館、1999年)

日本・中国・韓国の「グレゴリオ暦(西暦)」導入時期

国名	時 期	固有の歴	備 考
日本	1873 (明治6年)	皇紀2671年	「皇紀」=神武天皇即位の年(紀元前660年) (明治5年太政官布告第342号)によつて制定
中国	1912 (民国1年)	廢止	「中華民国(台湾)・「中華人民共和国(中国)」
韓国	1896 (建陽元年)	檀紀4344年	「檀紀」=檀君朝鮮の檀君即位の年(紀元前2333年)1948~62年まで使用

元号

- ① 中国の漢王朝の武帝(在位、紀元前141-87年)が始めた年の表記法。その後、頻繁に元号を改めるが、その理由は呪術の意味が込められた(皇帝といえども年とともにその威徳も衰退するが、それを再び若返らせて元年の状態に戻す)。
- ② 元号は紀年法を作ろうとする目的からではなく、皇帝が時間も支配する権力・權威であるというシンボルと、それをもって被支配者従わせるのが目的であった。
- ③ 元号制の本質=「天命」による皇帝の政治→天命が革(あらた)まる=革命の意味
- ④ 日本(1)通説=654年天皇が蘇我氏を倒して孝徳天皇が即位し「大化」という元号を制定。しかし、「大化」は『日本書紀』が編修されたころにつけた号であり、日本最初の公式の年号は、701年ごろにつけられた「大宝」であるという説が登場
- ⑤ 改元の理由 = a代替わり b災異祥瑞 c革命の年(辛酉や甲子)

明治・大正・昭和・平成元号成立

明治	1868.1.2 5~ 1912.7.3 0	『易経』「説卦編」の「聖人南面而聽天下。嚮明而治。蓋取諸此也(聖人が南面して政治を聽けば、天下は明るい方向に向かって治まる)」。岩倉具視の提案によって、天皇みずからくじを引いて決めた。)
大正	1912.7.3 0~ 1926.12. 25	『易経』「大蓄編」の「能止健大正也(能く健(すごやか)なるを止めしむるは大正(おおいにただしければ)也)」と『周易』の「大享以正天之道也(大いに享を正すをもって天の道なり)」の説がある。学者の案から西園寺首相が政府案として「大正」、「天興」、「興化」を選び、枢密院会議で「大正」と決定
昭和	1926.12. 26~ 1989.1.7	『書経』「堯典編」の「百姓昭明、万邦協和」による。宮内省と内閣双方の案から政府が「昭和」「元化」「同和」を選び、枢密院会議で宮内省案の昭和と決定
平成	1989.1.8 ~	『史記』「五帝本紀」の「父義、母慈、兄友、弟恭、子孝、内平外成」、『書経』「地平天成」=「内外、天地とも平和が達成される」一般の学者が提出した案をもとに有識者の懇談会、衆参正副議長の意見聴取を経て全閣僚会議、閣議で決定

元号法(昭和五十四年六月十二日法律第四十三号)

1 元号は、政令で定める。2 元号は、皇位の継承があつた場合に限り改める。

不定時法から定時法へ ①

時間と時計(日本の場合)



セイコーキュージアム

<http://museum.seiko.co.jp/knowledge/wadokei/huteijihou/index.html>

時間と時計(日本の場合)

①江戸時代までの日本

・不定時法=日出と日没によって昼と夜に分け、それぞれを6等分(九ツ~四ツ)したもので、時刻と太陽の位置は一致するが夏の昼の時間は長く、夜の時間は短くなり、季節によって時間の長さが変化

→ 1873(明治6)1月1日定時法採用

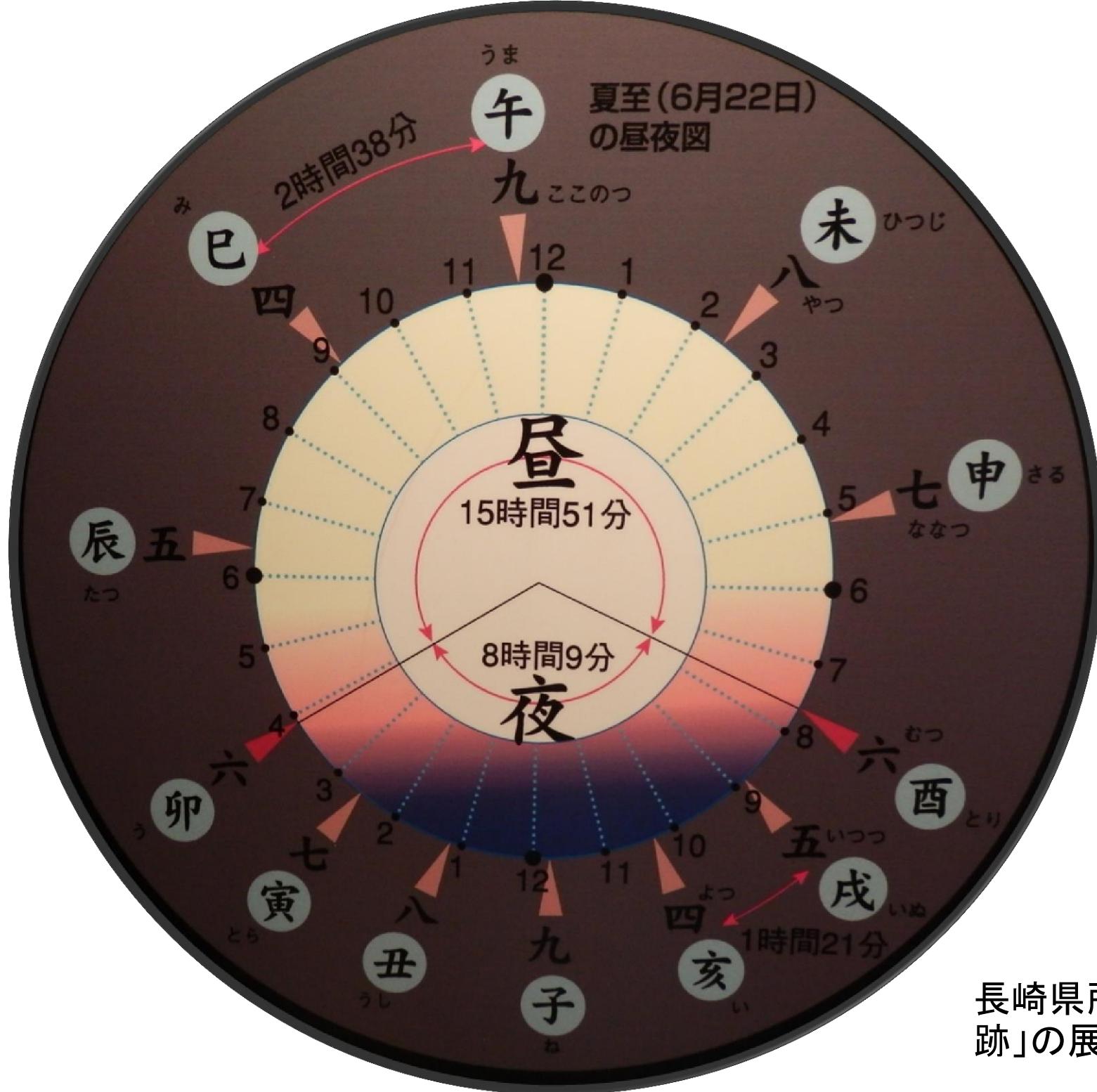
②江戸時代の日本では、それぞれの藩ごとにそれぞれ不定時法に基づいて時間を計測しており、藩のなかでの相互行為はこの時間に従って営まれていた。城内に勤める役人は城内で打たれる時太鼓の音に従って勤務し、城下の町人や村々の農民たちは、寺の時鐘に従って生活していた。

(森下徹「近世の地域社会における時間」『遅刻の誕生—近代日本における時間意識の形成』橋本毅彦他編、三元社、2001)

③「明六ツ」の鐘はおおまかに日本列島の東から西へ進みつつまちまち鳴っていたのである。したがって、不定時法では、「明六ツ」といっても、どこの「明六ツ」かがわからなければ、意味をなさない。

昼夜の長さおよび日の出・日の入り時刻表

地域	年月日	昼の長さ	夜の長さ	日の出	日の入り
札幌	2014年1月1日	9時間4分	14時間54分	7時6分	16時10分
	2014年8月1日	14時32分	9時間28分	4時23分	18時58分
東京	2014年1月1日	9時間48分	14時間12分	6時51分	16時38分
	2014年8月1日	13時間57分	10時間3分	4時48分	18時47分
那覇	2014年1月1日	10時間32分	13時間28分	7時17分	17時49分
	2014年8月1日	13時間22分	10時間38分	5時54分	19時17分



長崎県所在「出島和蘭商館跡」の展示物

〈撮影、徐玄九〉₂₅



長崎県所在「出島和蘭商館跡」に展示されている時計
〈撮影、徐玄九〉

①世界標準時



出典 : http://citizen.jp/pr/hidokei_05.htmlより転掲

②グリニッジ世界標準時

西経
10度

経度
0度

東経
10度

グリニッジ

AM 2:20

AM 3:00

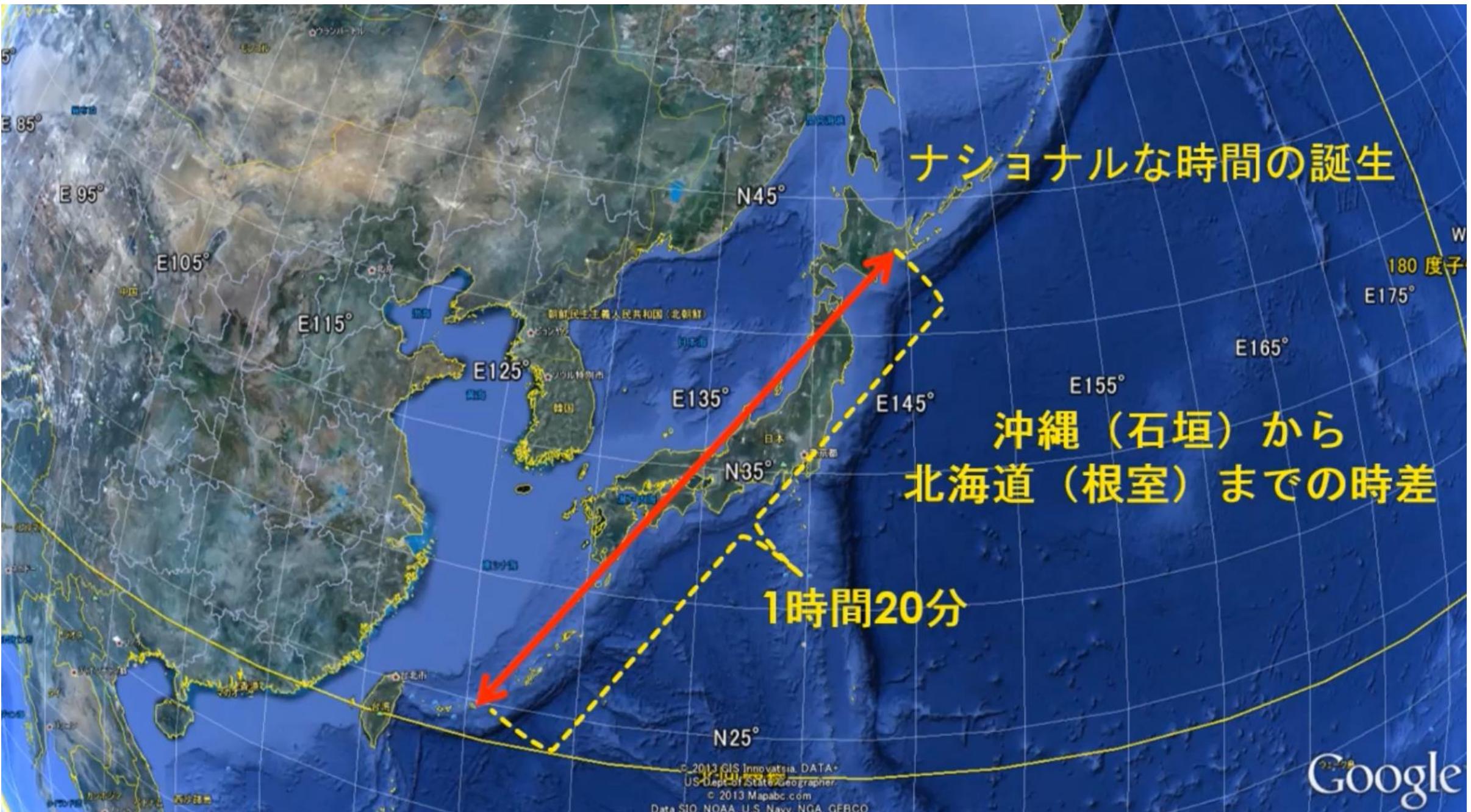
AM 3:40

③日本の標準時基準(兵庫県明石市)



世界標準時制定の略史

1714年	経度法制定
1765年	ネヴィル・マスケリンがグリニッジ天文台台長に就任
1766年	「海上に於ける経度発見法委員会」から航海暦を刊行
1884年	ワシントンD.C.で開催された国際子午線会議でグリニッジ子午線が本初子午線として採択される(世界標準時の確定)
1911年	パリで開催された国定暦本編製に関する国際的な天文学者会議開催(全ての暦にグリニッジ時を標準とする)



不定時法から定時法へ ②

①「改暦詔書」(1872年)

=太陽暦と「定時法」の採用

(1872年12月3日を新暦1873年1月1日に改めた)

②時間が太陽の動きから切り離され、逆に「日の出、入り」が時計によって太陽の動きが計られる。

③太陽の動きとは無関係な時計的時間によって昼と夜の1時間の長さは、季節とは関係なく**不变**のものとなった。

④定時法の時間は場所に関係なく「どこでも」同じである「ナショナルな時間」である。

年月日	事項
1869(明治2)	東京・横浜間電信開通
1871(明治4)	東京・大阪間郵便事業開始
1872(明治5) 9月 同年11月9日	新橋・横浜間鉄道開通 改暦詔書
1873(明治6)1月1日	定時法採用
1876(明治9)	全国電信網完成
1879(明治12)	標準時制定(東京時)
1884(明治17)10月	国際子午線会議
1888(明治21)1月1日	日本標準時制定(東経135度)
1889(明治22)7月1日	東海道線開通
1890(明治23)	東京・横浜で電話事業開始
1925(大正14)	ラジオ放送開始

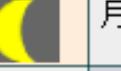
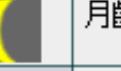
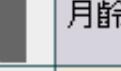
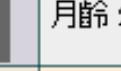
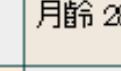
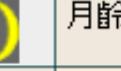
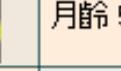
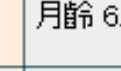
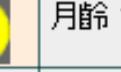
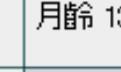
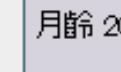
【例】旧暦・新暦の対照

◀前月

2016年
平成28年 1月 January (睦月 むつき)

昭和 91 年※
大正 105 年※
明治 149 年※

翌月▶

日 Sunday	月 Monday	火 Tuesday	水 Wednesday	木 Thursday	金 Friday	土 Saturday
					1 友引(壬午) 元日 旧暦 11/22 月齢 20.7 	2 先負(癸未) 旧暦 11/23 月齢 21.7 
3 仏滅(甲申) 旧暦 11/24 月齢 22.7 	4 大安(乙酉) 旧暦 11/25 月齢 23.7 	5 赤口(丙戌) 旧暦 11/26 月齢 24.7 	6 先勝(丁亥) 旧暦 11/27 小寒 月齢 25.7 	7 友引(戊子) 旧暦 11/28 月齢 26.7 	8 先負(己丑) 旧暦 11/29 月齢 27.7 	9 仏滅(庚寅) 旧暦 11/30 月齢 28.7 
10 赤口(辛卯) 旧暦 12/1 月齢 0.1 	11 先勝(壬辰) 成人の日 旧暦 12/2 月齢 1.1 	12 友引(癸巳) 旧暦 12/3 月齢 2.1 	13 先負(甲午) 旧暦 12/4 月齢 3.1 	14 仏滅(乙未) 旧暦 12/5 月齢 4.1 	15 大安(丙申) 旧暦 12/6 月齢 5.1 	16 赤口(丁酉) 旧暦 12/7 月齢 6.1 
17 先勝(戊戌) 旧暦 12/8 月齢 7.1 上弦 	18 友引(己亥) 旧暦 12/9 冬至用入 月齢 8.1 	19 先負(庚子) 旧暦 12/10 月齢 9.1 	20 仏滅(辛丑) 旧暦 12/11 月齢 10.1 	21 大安(壬寅) 旧暦 12/12 大寒 月齢 11.1 	22 赤口(癸卯) 旧暦 12/13 月齢 12.1 	23 先勝(甲辰) 旧暦 12/14 月齢 13.1 
24 友引(乙巳) 旧暦 12/15 月齢 14.1 満月 	25 先負(丙午) 旧暦 12/16 月齢 15.1 	26 仏滅(丁未) 旧暦 12/17 月齢 16.1 	27 大安(戊申) 旧暦 12/18 月齢 17.1 	28 赤口(己酉) 旧暦 12/19 月齢 18.1 	29 先勝(庚戌) 旧暦 12/20 月齢 19.1 	30 友引(辛亥) 旧暦 12/21 月齢 20.1 
31 先負(壬子) 旧暦 12/22 月齢 21.1 						
出典:旭川情報ねっと http://www.ajnet.ne.jp/diary/?yy=2016&mm=01&youbi=0&history=-28						

明治六年一月一日 翌

官許

改曆辨

慶應義塾藏版



改曆辨

福澤諭吉著

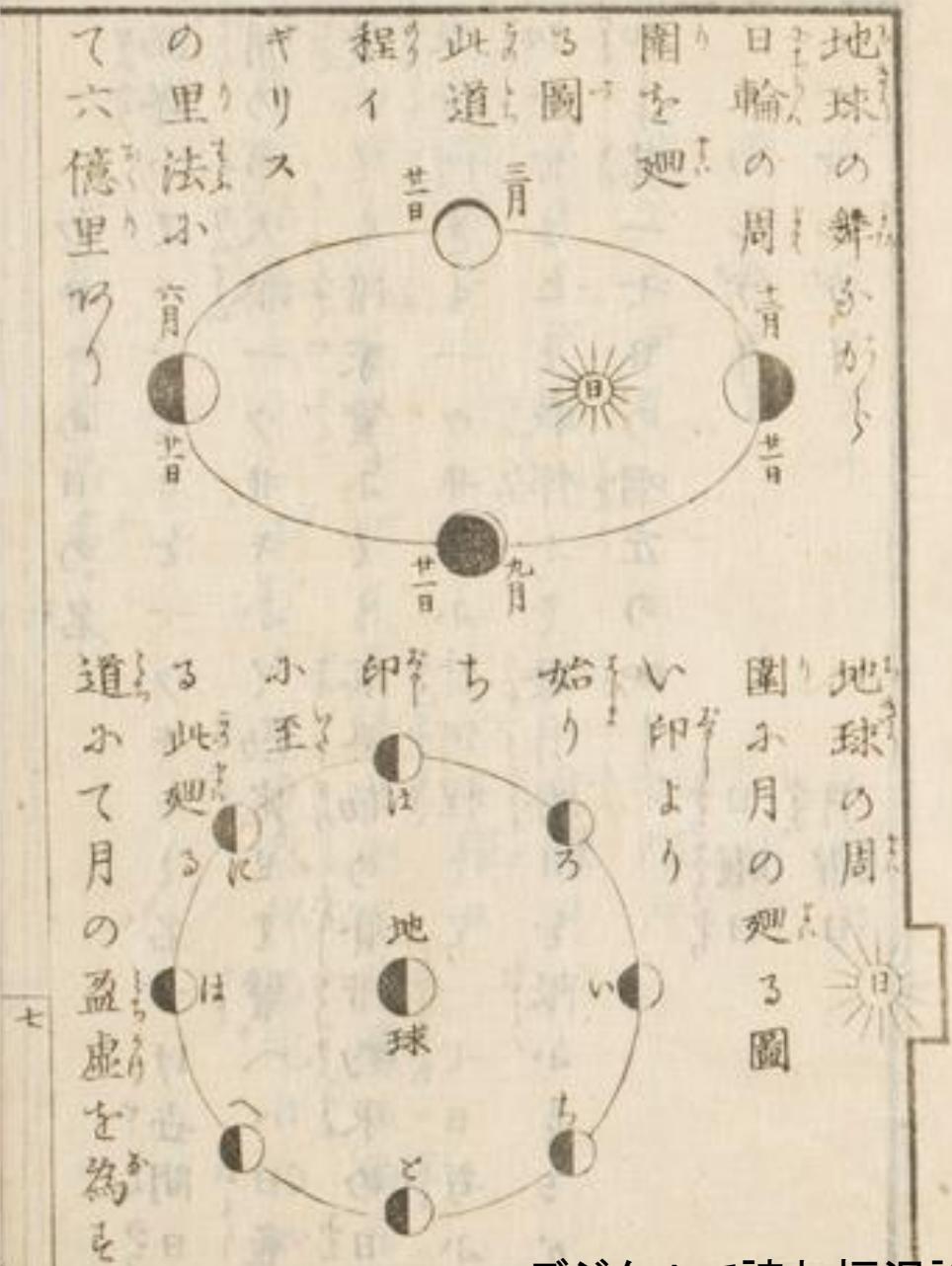
大陽曆と大陰曆との辨別

此度大陰曆を止て大陽曆とす。—明治五年十二月三日を明治六年一月一日と定めたるハ一年俄小二十七日の相違にて卉間よしきを怪む者も多からんと思ひ西洋の書を調べて彼の國よ行もろゝ大陽曆と古來支那日本等小用る大陰曆との相違を示毛こと左の如く

より人の讀むべき書物と讀む物事の道理を辨
てよく其本を尋き。又其事も不思議す。事
ひを改め日本國中の人民此改善を怪む人
者多也。學父旨の馬鹿者乎。或きし怪者才
度の者乎。平生學問の心誠はる知者才
別を吟味の問題と以ふも可たり。

デジタルで読む福沢諭吉

http://project.lib.keio.ac.jp/dg_kul/fukuzawa/flipper_index.php?ID=F7-A18&PAGE=11_36



福沢諭吉の『改暦辯』執筆経緯

「自分(福沢)としては太陽暦の採用に大賛成なもの、政府のやり方に大いに不満を抱いた。暦の変更は一大事件である。改暦を断行するには国民にその理由を知らせ、新旧の暦の差異を丁寧に繰り返し説明して、納得させる必要がある。ところが政府は、簡単な改暦の布告と詔書を一方的に下すのみで、国民は詳細を知ることができない。そのような事情を役人は心に留めず、また説明もしない。そこで、民間人の自分が改暦を説明して政府の事業を助けようと思いついた。」

(慶應義塾『福沢諭吉書簡集 第二巻』岩波書店 2001年 173-174頁)。

福沢諭吉『改暦辨』(1873年1月1日)

「此度、大陰暦を止て、大陽暦と為し、明治5年12月3日を明治6年1月1日と定めたるは、1年、俄(にわか)に、27日の相違にて、世間に、これを怪む者も多からんと思ひ、西洋の書を調べて、彼の国に行えるる大陽暦と、古来支那、日本等に用る大陰暦との相違を示すこと左の如し。」(中略)

「これまでの暦には、つまらぬ吉凶を記し、黒日の白日の、とて、訳もわからぬ日柄を定めたれば、世間に暦の廣く弘まるなど、迷いの種を多く増し、或は婚礼の日限(にちげん)を延ばし、或いは轉宅(でんたく)の時を縮め、或いは旅立ちの日に後れて河止(かわどめ)に逢ふもあり。或は暑中に祭礼の日を延ばして、死人の腐敗なるものあり。」(中略)

「一年と定めたる奉公人の給金は、十二箇月の間にも十両、十三箇月の間にも十両なれば、一箇月は、ただ奉公するか、ただ給金を払うか、何れにも一方の損なり。その外の、不都合、計(かぞふ)るに遑(いとま)あらず。是、皆、**大陰暦の正しからざる処なり。**」(中略)

「この度の改暦にても、其訳を知らずして、12月の3日が正月の元旦になると計りいふて、夢中にこれを聞き、夢中にこれを伝へなば、實に、驚くべき事なれども、平生より、人の読むべき書物を読み、物事の道理を弁じて、よく、その本を尋ねれば、少しも不思議なる事にあらず。故に、**日本国中の人民、この改暦を怪しむ人は、必ず、無学文盲の馬鹿者なり。これを怪しまざる者は、必ず、平生、学問の心懸けなる知者なり。されば、この度の一条は、日本国中の知者と馬鹿者とを区別する吟味の問題というも可なり。**」

機械的時間の登場とその影響

機械的時間の登場とその影響

ジェレミー・リフキン『タイムウォーズ(Time Wars)』松田銑訳、早川書房、1989年

「人間は時計によって新しく定義され、客体化・数量化された。なによりも人間は時計に服従しなければならない。」(ジェレミー・リフキン;Jeremy Rifkin)

- ①都市の権威の象徴でもあった大時計は都市生活の中心であったが、最初の時計には文字盤がなく、単に時間になると鐘を鳴らすものだった。(農作業の開始、礼拝、消灯の合図)
- ②14世紀の前半、ミラノボローニャ、フィレンツェのようなイタリアの諸都市で初めて「公用時打時計」が設置される。14世紀の後半から15世紀にかけて、ドイツ、オランダ、スイス、フランス、ベルギー、イギリスの都市に大時計が設置される。そして、時計が毎時間ごとに鐘を鳴らし続けると、いつしか時間は、絶えず流れしていくものと感じられる価値あるものとみなされるようになった。(G.J.Whitrow, *What is Time*, 1972)

③16世紀までに、文字盤のついた時計が登場、さらに振り子が発明(1600年代半ば)されたことで、より正確な時計が作られ始めた。やがて、1700年代初期に分針が登場した。(天文学者、航海士、医者などが正確な時間を記録するために使われた。)

④機械時計は新しく台頭しつつあった市民階級に歓迎された。都市での多様な商業活動を計画(納入予定、在庫予定、銀行・会計の予定、ビジネスの約束)するために欠かせないものとなつた。また、時計は商人や工場主達が労働者の仕事の時間を管理するための道具でもあった。

⑤自分で自分の仕事時間を決めていた中世の職人とは違つて、新たな工場生産システムのなかの新たな労働者は自分の時間を完全に新たな工場のリズムに合わせることを要求された。

⑥時計のように規則的になることは、新たな工業時代の最高の価値となつた。時計が人の心を条件づけて、時間を外部的・自律的・連続的・強制的・数量的・不可分のものにした。

「教会の時間」と「商業の時間」との対立

教会の時間(永遠・聖なる時間)

教会の時間は、神と自然に属し、自然サイクルに依存する具体的な時間である。農民の時間経験がそうであるように、教会の時間は本来的に金もうけには向かない。しかし、教会の贈与経済論も商人経済との対決のなかで、いつのまにか相手の考え方を受け入れ、「贈与」を教会の資本蓄積の手段に変質させる傾向を示した。信者による寄付行為は、表象のレベルでは「神への贈与」であるが、来世での救済に対する価格の意義を帯びることであった。こうして教会は貨幣資産を蓄積し、時間表象も商人のそれと区別をなくしていった。

**ベネディクト会修道士(6世紀)における主たる規則=「怠惰は魂の敵である」とし、時間を稀少資源とみなした。₄₃

商業の時間(測定・予測可能な時間)

商業活動はいわば「知的」な活動である。例えば、飢饉を見越して在庫備えをすることは、経済変動の知識にもとづく経済予測を行わねばならない。安く買って高く売るというのは結果であって、その結果(高利益)を生む背景には、マーケティングや情報収集の努力がある。商人は知的操縦による情報獲得から利潤・利子を得る。彼らはいわばフィクショナルな活動から利益を引き出す。**商人の時間はつねにフィクショナルで仮説的な、その意味で抽象的な時間である。**

***商人は、時間の損失が貨幣的利益の損失と考える。聖職者は、時間の損失が聖書のための時間の損失と考える。着眼点と素材は違っても、時間に対する態度は同じである。

機械的時間の登場とその影響 まとめ

- ①要因＝宗教上の儀式の時刻と都市生活上の時刻
- ②変化＝不定時法から定時法への切り替えが始まる。
- ③精密な時間計測機械／労働の管理

「厳密な時間への志向」(18世紀以後)

- ①いくつかの「工場」でタイムカードを使用
 - ②季節や昼夜を問わない工場労働
- ⇒規律化と公共時間の浸透

「時計化」する社会

- ①交通網の発達＝ばらばらだった各都市間の時間が統一へ
- ②郵便の時間＝様々な地方時間の成立
- ③鉄道の時間＝鉄道＝「大きな全国時計」

- ・「定刻」使用 ⇒ 「遅刻」という概念が成立
(例：登校・授業時間、出勤時間)
- ・「時間厳守」は近代人の規範となった。
- ・スピードの速さが評価規準となる。

「未来」に関する時間意識 —ピエール・ブルデューの場合—

ピエール・ブルデュー (Pierre Bourdieu)によれば、前資本主義的人間と資本主義的人間との間の決定的相違点は「未来」に関する「時間意識」だという。

近代資本主義以前		近代資本主義以後
潜在的に訪れるもの	未来	可能性の場
反復的な循環	時間観念	直線的な進化

- ①前資本主義社会(基本的には「農耕社会」)では、反復的に循環する時間観念が支配的であったがゆえに、それを長く経験した年長者(老人)に尊敬の眼差しが向けられたが、資本主義社会では反対の眼差しが向けられる。その理由は、資本主義社会は現在とは異なる「未来」を企画する社会だからである。
- ②前資本主義的人間が資本主義的人間型に代替されたことで「未来」への眼差しも変化した。すなわち、「未来」は「潜在性」ではなく、「可能性」へとその意味を変えたのである。

時間表象のまとめ

- ①古い農村時間と教会時間において、労働時間の単位は(1日)である。自然のリズムにそった時間のリズムで十分であり、正確さなどは必要なかつた。
- ②不確実な時間(教会的・古代的時間)は終わり、確実な時間、日常の市民生活に役立つ時間が確立する(14世紀、機械仕掛けの時計の出現)と雇用者側からは彼らは時計時間によって(労働を規律訓練化)させた。
- ③14世紀以降、「時間」が貨幣的な性格を帯びるようになってから、怠惰は単なる道徳的非難ではなく貨幣的視座から非難されるようになった。怠惰を罪悪視するこの倫理感情と時間表象が個々人に内面化するとき、時間は人間にとて固有のものとみなされ、「財産=所有物」として表象される。